

イージス・アショアに係る防衛大臣との会談

秋田県総務部総務課

1 日 時

令和元年6月17日（月） 10:00～10:30

2 場 所

秋田県庁特別会議室

3 来庁者

岩屋防衛大臣、槌道防衛政策局長、伊藤東北防衛局長 ほか

4 応対者

佐竹知事、加藤県議会議長、堀井副知事 ほか

5 発言内容

（大臣）

本日は、議会開催中の大変お忙しい中、佐竹知事様、加藤県議会議長様、堀井副知事様の貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございました。イージス・アショアの配備につきましては、先月27日、これまで防衛省が実施してまいりました各種調査、それを踏まえた検討の結果について、原田副大臣から佐竹知事をはじめとする皆様に対して、御説明をさせていただいたところであります。しかしながら、他の国有地の検討におきまして資料に記載されている遮蔽の角度の記載に重大な誤りがございました。防衛省としてはこうした事態はあってはならないことだと考えております。また、住民説明会の場におきまして、職員による誠に不適切な対応など、防衛省としての姿勢が問われる事態が生じたことにつきまして誠に申し訳なく思っており、改めて深くおわびを申し上げる次第でございます。こうした事態が二度と起こらないよう、私から事務方に対し、再発防止を徹底し、体制を抜本的に強化して、緊張感をもって今後の対応に当たるよう厳しく指示をしたところでございます。防衛省内における体制強化につきましては、原田副大臣を長とした、イージス・アショア整備推進本部を速やかに立ち上げる予定でございます。そこには内局はもとより陸海空自衛隊のイージス・アショア関連部局全てを参画させた体制を組んでまいります。もちろん、最終的な責任者は私でございます。他の国有地の検討における数値の誤りに関しましては、国有地と遮蔽物の角度をより精緻に把握するために、現地での測量調査を実施いたします。その際、外部の専門家の活用

も含めまして、適切に進めていく所存でございます。また、地元の皆様からこれまで頂いている御指摘を踏まえまして、今後、これまでの説明内容について確認と見直しを行い、資料を修正するなど、十分な御説明ができますよう、しっかりと準備を行った上で、改めて御説明に臨みたいと考えているところでございます。防衛省といたしましては、皆様からの信頼を回復できるよう、もう一度原点に立ち返って、真摯に取り組んでまいる所存でございます。

(知事)

おはようございます。まず、大臣から秋田にわざわざ謝罪に訪れていただきましたことに、率直にお礼を述べさせていただきます。この際、いくつか遠慮無くお話をさせていただきます。まず、私は元々大学時代に防衛省との共同研究を、あるいは首長になっても、自衛隊に対する理解は非常に強い首長だと思います。例えば県職員時代に、今はないですけど、自衛隊関係の会議が東北六県の持ち回りで開催されておりましたが、私が担当課長の時に、当時の知事に出席を求めたことがありました。自衛隊関係の会議に知事が出るというのはまず無いと思います。また、秋田駐屯地の節目の記念行事には市長の時に市道を解放して、いわゆる一般の街頭において行進をするなど、防衛省に対しては非常に理解のある首長だと思っています。ただ、今回の事案について私は非常に残念というよりも、何と云うのでしょうか、悲しくなる。これはですね、防衛省の内局の信頼性、あるいは住民の怒り、我々の不信感というそういうこともありますが、現場でしっかり任務に励んでいる隊員の士気にも影響します。また、これは少し大げさでしょうが、国際的に我が国の防衛政策がこういうふうにずさんだという国際的な評価。これも私の思い過ごしであるかもしれませんが、日本の国防政策に対して、海外からの評価が非常に落ちる。そういう中で、配備に理解を示す方も少なからずいたわけですが、その方々もやはり応援をするような雰囲気にならない。ですから、正にこれからの防衛省さんの作業というのは、マイナスからのスタートです。そのように受け止めていただきたいと思います。まずこれです。前的大臣の任期中ですが、最初から入口が少し違ったと。グーグルアースを最初に見ていれば、最初に福田政務官が来て、あそこが最適だといった発言をして、また、市街地があんなに近いのがはじめて分かったと。あの時にグーグルアースをちゃんと見ていればすぐ分かるんですよ。今回のアショアは、日本で初めて固定式の戦略装備を日本に配備する、しかも非常に高額で、防衛上非常に重要な装備。これを配備するということは、最も良い場所、この適地というのは単にポイントとしてだけではなくて、防衛線、近隣住民の安全性、こういうものを全て見込んだ上で、確かに日本の国土は狭いですから、そうあちこちにあるわけではない。また、急峻な地形でもあります。しかし、一定の時間と金を掛ければ、そういうことができる場所もあり得ます。ですから、最初に全国の一定の土地を調べた上で数か所に絞って、その中からいろんな事情を考えて絞り込んでいく。これが本当なんです。ところが、今回私ども

が他に適地がないかという判断で申し入れて、他も調査してみると。そもそも、今回地元の新聞社が発見した間違い。また、男鹿の石油備蓄基地、ああいう所を入れる必要はないんですよ。火気厳禁のところにああいう装備を置くことはないですよ。ですから、とにかく数を稼いで、あれは駄目、これは駄目と最初から駄目にしようというふうに感じて仕方がないと思うんですよ。そういうことで、あの問題はいずれ市が検証チームを作ってしっかり対応、精査する。私どもも、実は数か所、我々自身が現地に入ってこれをチェックするという。そういうふうになんか決めていたんです。その矢先にああいうことが出たんです。ですから、適地調査というのは一番最初です。仰角の問題も戦術上、戦略上あの10度が良いのかどうか。あと、インフラが無い。ただ、インフラも程度によるが、ある程度すぐにできる場所もあるでしょうし、物理的に不可能な場所もあるでしょうし、金を掛けると良い所もあるでしょう。そうしますと仮に県有地、あるいは道路の付け替え、そういう費用とか年月を考えた場合に、比較論も必要なんです。ですから、仰角の問題以外にも基本的な事情について全部、例えば、人家との関係、あるいは確かに整備しにくいとか、あれもレーダーとVLSを少し離して置いても問題はないですよ。これは、たまたま1か所にまとめようとするもので、確かに警備上の問題もありますが、いろんなケーススタディが必要になってくる。ですから、いずれ他の候補地もしっかり調べて、比較を全部出せるような、経費、警備、時間、物理的な問題、あるいは近隣の住民の問題等の全体の調査が必要ではないかと思われます。次はレーダーです。最初、日本海だけに向けるという説明だったんです。ところが、途中から全周囲に向くと。また、東側、日本海側10度の仰角というのも出てきた。なぜ、東側に向けるか。この前の説明では打ち漏らした場合にそれを捕捉するためだと。迎撃ポイントは日本海の上にあるんですね。日本上空が迎撃ポイントになることは日本に対する攻撃ではほとんどない。逆にいいますと、仮に三沢にミサイルが打たれて、それを打ち漏らした場合、10度まで下げなくても、途中で三沢の方のデータリンクによって、三沢の方のPAC-3のレーダーはスイッチオンになるんです。これは、10度まで下げなくても45度でちゃんと三沢で見れます。ですから、1996年のBMD政府間合意、安全保障法制の数年前の改正、これとの整合性は全くとれていない。政府間合意で米軍とデータリンクするというDWE Sの方向性も出ています。その上で、これだけの理由で全周を照射するというのは、捕捉することはあるでしょうけれども、隠しているということではないでしょうけど、本質のところを語っていない。この点についてしっかりと情報を言わないと。防衛政策上の機密事項、ここは別にして、政府間合意でやったものを、イージスのような高額のものを買ってBMD構想に反映させないのはおかしいですよ。そこを言わなければダメです。私が今回一番気にしたところは、住宅密集地に、あの中に納めようとする250メートルから300メートル、道路と林がありますので近くには見えませんが、それしかないんです。住宅密集地に何らかの影響があった場合どうするかということについて、国民保護法でというのは乱暴です。少なくとも、

住宅地と数百メートルしか離れてないことを国民保護法で説明するのはいかにも乱暴です。それによって地域住民の理解が深まるかどうかは別にして、例えば、半径1 kmはないが完全に安全といったことを住民に具体的に示す必要があるんですよ。これを国民保護法でというのは、大臣もそう思うでしょう。もう一度スタートに戻って検討されて、それがいいことには私どもは協議に入ることができません。いま言った点も含めて、しっかり精査していただいて、丁寧な説明というよりも正確な説明をしてほしい。後は、よく防衛機密と言うが、米軍やロッキード・マーチン社を見れば出ているものがいっぱいある。ネットに出ているもので防衛機密というものはない。あからさまにできるものは、最大限あからさまにしてもらって、それによって、ある程度の協議に我々は入れる。今までのように国民保護法によって、そういう言い方をすると、いくら私が防衛省・自衛隊に理解があっても乱暴すぎます。自衛隊員の士気、隊員の士気が一番です。この士気があって日本の防衛というのは成り立っています。隊員の士気が失われるような配備はすべきではないですよ。少し乱暴な言葉ですけど、大臣がお見えになっていますので、そういう点についてお時間、これだけではないですけども、少し気がついた点についてお話をさせていただきましたので、どうぞよろしくお願いします。

(議長)

今日はどうもありがとうございます。大臣の選挙区は大分だそうです、常々権力は謙虚でなければならないとお話しされております。今回の一連の件に関し、報告書の信頼性について、議会においても非常に疑問を持たざるを得ない。一部が違っていたということではなく、全体はどうなのかということについては知事から詳細に話がありましたけれども、そうした部分で、現場で対応する皆さんの信頼性が揺らいでいる。このことはしっかりと御認識いただきたいと思います。それから、先ほど大臣から今後新しい組織を立ち上げて対応していくという話がございました。そういう防衛省の真摯な態度というお話が大臣からありましたが、そうした対応や取組がどういうふうな形で出てくるのか。こういうことを我々も見極めなければ、議会としても様々な議論ができない。こういうことでありますので、その辺は十分にお含み置きいただきたいと思います。

(大臣)

佐竹知事さん、そして加藤議長さんのただいまのお話を、まずはしっかりと受け止めさせていただきたいと思います。また、知事さんにおかれましては、これまで防衛省に対して御理解のある対応をしていただいて、感謝申し上げます。また知事さんからですね、このような事案、隊員の士気、防衛省・自衛隊に対する国際的な評価に関わるのではないかと御指摘については深刻に受け止めたいというふうに思います。他の国有地の検討におけるミスでございますけれども、グーグルアースの縦尺、横尺の縮尺が違うということに気付かず、誠にうかつなミスをしてしまったということで

ございまして、あつてはならないミスだった、チェック体制が甘かったということでございまして。再調査に当たりましては、現地での実地測量をしっかりと行ってですね、更に精緻なデータを得てお示しをさせていただきたいというふうに思っています。それから知事さんからお話がありました、固定式の装備であるということから様々な住民の皆さんの御懸念、御不安というものが生じているかと思ひます。私どもですね、やはりミサイル防衛というのはこれからの我が国の防衛のひとつの大きな柱だというふうに考えておりまして、総合ミサイル防衛体制を作り上げるためにもですね、イージス・アショアという装備が必要不可欠なものだと考えております。もちろんこれは抑止のための装備でございまして、実力を備えた上でこういうものが実際に使われることがないような環境を作り上げていくことが政府の責任だと思ひているところでございましてけれども、このイージス・アショアの必要性については、これからも丁寧に説明させていただいて、御理解を頂きたいと思ひております。それから、他の国有地の検討においては、知事さん御指摘のですね、果たしてインフラ整備のためにはどのくらいの時間、コストというものが掛かるかということも含めて、しっかりと、既に検討はいたしておりましたが、更にしっかりと検討したいと思ひているところであります。それから、レーダーが基本的には東側は向かないという想定でございましてけれども、仮に我が国を通り越す形のミサイルが過去に発射されたことを踏まえますと、ミサイルの航跡を追うという必要が万が一の場合には生じることはあるとは考えておりますけれども、基本的には、東側を向くことは想定していないということでもあります。知事さんから、米軍との戦略との関連について御指摘がございましたけど、イージス・アショアという装備は、あくまで我が国のミサイル防衛のために必要だと考え、配備を行いたいと考えております。当然、米国は同盟国でありますから、様々な情報交換や連携をしますし、仮に有事等という事態に陥ったならば、当然、同盟国として力を合わせていかなければいけないと思ひますが、我が国のミサイル防衛は、我が国で完結できるシステムをしっかりと作り上げたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと思ひます。それから、万が一、住民の皆様の避難が必要な場合、もう少し、対応案をしっかりと示すべきという御指摘につきましては、これを受け止めまして、きちんと御説明できるようにしたいと思ひております。言うまでもないのですが、もし、我が国が有事という、もし万が一そういう事態に陥ることになれば、既に整備しております有事法制等によってしっかりと対応する仕組みがもちろんできておりますけれども、そういう事態に至らずに、万が一、避難が必要な時にどうするか、知事がおっしゃるとおりしっかりと御説明できるようにしていきたいということです。説明においては、機密に関することについては開示できない部分もございしますが、知事の御指摘のとおり、できるだけ正確に情報を公開できるようにしっかりと示しながら、説明をさせていただきたいと思ひています。加藤議長さんからも厳しい御指摘を頂きました。議会の皆様方の信頼を回復し、御理解を得るためにも、私ども原点に立ち返ってしっかりと議論を行った上で説明の機会を賜ればと思ひておりますので、まず

は、取組をしっかりと優先してまいりたいと思います。

(知事)

最後に確認ですが、来年度予算について、地元に関係する予算を盛らないということは、新屋に固定したということではないというふうに受け止めてよいでしょうか。

(大臣)

もとより、地元の御理解を得ない状況で、予算を計上することは考えておりません。予定もしておりません。一部で、予定をしていたものを取りやめたというような報道もありましたけれども、御理解を頂いていない段階で、配備先に関わる予算を計上するということはいたしません。

(大臣)

今日は、改めておわびを申し上げたいということで、議会開会中の大変お忙しい中、貴重な時間を頂きましてありがとうございます。今日頂いた御指摘をしっかりと踏まえまして、防衛省・自衛隊として新たな体制のもとに調査検討をやり直してまいりまして、また、できるだけ分かりやすい正確な説明ができますように検討してまいりたいと考えております。本日は誠にありがとうございました。

以 上